

圧倒的な色気と存在感、たゆたう情感を醸し出す歌唱。ちあきなおみは不世出である

昭和歌謡 誕生物語

第五回
文・山川智



うまい歌手というのは、
たくさんいる。

だが、凄い歌手というのは、
片手に数えられる
ぐらいしかいない。

ちあきなおみは、
そんな凄い歌手だった。

過去形で言うのは、20年以上、
姿を現さないからだ。
すでに彼女は「伝説」になっている。
山口百恵以来の伝説。

それがちあきなおみという、
歌謡史に輝く声と表現力を
熱成させた歌手だった。

ちあきがおみは、
男性歌謡をカバーした曲の
切なき、艶っぽさ。
ああ……

今もう一度、生のステージに
この身を同床させたい歌手は、
ちあきなおみしかいない。

当 時の僕は、まだランド
セルで登校する小学

生だった。学校からの帰り道、
意味もわからず歌っていた

「思ひいふちうどり」の意味を
知り、思わずギョツとなって、

翌日からなんとなく歌えなく
なってしまった……。ちあき

なおみの「喝采」には、そんな
思い出がある。

5歳でショービジネスの世
界に入ったちあきは米軍キャ

ンプやジャズ喫茶、キャバ
レーで歌ったあと、橋幸夫や

こまどり姉妹などの前座歌手
を務めたのち、1969年「雨

に濡れた慕情」でデビュー。代
表作となる「喝采」と出合った

のが72年だった。

この年は小柳ルミ子の歌う
「瀬戸の花嫁」が大ヒット。と

ころが、5か月遅く発売され
た「喝采」が予想に反して大健

闘を見せることになる。

「瀬戸の花嫁」が「婚」なら、
「喝采」は「葬」。しかも、吉田

旺が紡いだ詞が、当時の歌謡
界では異質だった。だが、「ひ

なびた町の昼下がりの空虚
なうら寂しさや、暗い待合室

から自分が歌う恋の歌がBG
Mで流れる、といった一つひ

とつの情景が鮮やかで、多く
を説明していないぶん、物語

を完璧に描ききっていた。

この詞に中村泰二が讚美歌
「アメイジンググレイス」など

を下敷きに作曲した愛いを帯
びたメロディーに乗せ、潤ん

だ瞳で斜めに視線を送りな
がら哀愁を込めて唄うちあき

の姿に、多くの視聴者が釘付
けになった。彼女はこのとき

25歳。恐れ入る歌手だった。
結果、「喝采」は大本命の「瀬

戸の花嫁」を抑えて第14回日
本レコード大賞に輝き、80万

枚を売り上げる大ヒットを記
録。その後発売されたシング
ル「劇場」・「夜間飛行」と併せて

「ドラマチック歌謡」三部作と
称された。

絶頂期を経て、ちあきは結
婚を期にマイペースな活動へ

移行。「ダンスにゴン」のCM
に出演するなど、役者として

も芸達者などところを見せたが、
1992年9月に夫の豊鉄治

と死別後、一切の芸能活動を
休止。公の場所にも全く姿を

現わさなくなった。

一説には死の間際、夫が「も

う歌わなくていいよ」と言っ

たとも伝えられるが、定かで

はない。事実なのは「いつもの

ように」歌謡ショーの幕が開

いても、もう20数年、そこには

彼女の姿がないということだ。

だからこそ、ちあきの歌う「喝

采」は、今なお歌謡ファン的心

をとらえて放さないのかわし
れない。

結果、「喝采」は大本命の「瀬

戸の花嫁」を抑えて第14回日
本レコード大賞に輝き、80万

枚を売り上げる大ヒットを記
録。その後発売されたシング

ル「劇場」・「夜間飛行」と併せて

「ドラマチック歌謡」三部作と
称された。

絶頂期を経て、ちあきは結
婚を期にマイペースな活動へ

移行。「ダンスにゴン」のCM
に出演するなど、役者として

も芸達者などところを見せたが、
1992年9月に夫の豊鉄治

Yamakawa Chii

1962年東京生まれ、テレビ制作会社
制作記者を経てフリーランスに。
著書に『東方神起の謎』『東方神起
J-POPをゆく』『共にイーストプレス』、
『ヒーローとキム・ダント 幸せのきずな』
（リトル出版）など。
また、出版プロデュース作品として
『生きる 渡家弘介』（スターツ出版）、
『アキる社員 狂食キキヤル』（共にイースト
プレス）などを著。